

「鹿角（ろっかく）ペンダントづくり」を開催

平成23年1月8日（土曜日）、テーマ展「見て ふれて 楽しい考古学—2010茨城県教育財団調査遺跡紹介展—」関連イベントとして「鹿角（ろっかく）ペンダントづくり」を実施しました。

古代の人々が首から下げていた「鹿角ペンダント」。参加者は鹿島神宮から寄贈された本物の鹿の角を削って、自分だけのペンダントを作りました。はじめに、鹿の角を目の粗い紙ヤスリで削り、角（かど）を取ります。その後、目の細かい紙ヤスリ等で滑らかにしてから、ガラス玉とひもを通して完成です。

参加者からは、「角を削るのがたいへんだったけれど、きれいにできてよかった」「自分だけのペンダントができたのでうれしいです」などの声が聞かれました。



▲ 親子揃ってペンダントづくり



▲ きれいにできました